

## 中国内モンゴル自治区における酪農生産の現状と課題

日本学術振興会特別研究員・龍谷大学 長命洋佑

1978年の以降、改革開放以降、中国では、それまでの計画経済は終焉をむかえ新たに市場経済化の波が押し寄せることとなった。伝統的な遊牧民による酪農生産においても黄牛や山羊の生乳を利用した乳製品の加工による自給型農業から、市場メカニズムを導入した商品作目へと転換した。国営、集団、個人のそれぞれがともに発展するというスローガンのもと、1980年代に人民公社の解体により、個人農場が形成され、個人による酪農経営が営まれることとなった。

かつて中国国民には、一部の地域を除いて牛乳を飲む習慣はなかった。しかし、中国政府は国民の健康増進の観点から牛乳を重要視することとなった。国務院は1997年に「全国栄養改善計画」を発表し、乳用牛飼養と乳業を重点的発展産業とした。

中国のなかで、酪農生産において著しい成長を遂げたのが内モンゴル自治区である。内モンゴル自治区では、1990年代後半より、巨大な乳業メーカーの搾乳ステーションが相次いで建設され、乳業メーカーが生乳生産に進出してきた。内モンゴル自治区では、生乳の流通構造およびその取引形態は大きく変化した。その結果、内モンゴル自治区における生乳生産は、2003年に黒龍江省を抜き、中国で第1位となった。

そこで本報告では、近年激変している内モンゴル自治区における生乳生産の変遷を概観するとともに、内モンゴル自治区における流通構造の変遷とその取引形態を明らかにすることを目的とする。

## Situation and Problems in the Dairy Production in Inner-Mongolia, China

Yousuke Choumei  
(Ryukoku University)

Rapid economic development in Inner Mongolia, China, is pushing up the consumption of livestock products as well as forcing the structure of agricultural production to change in recent years. In particular in, from the 1990s, marketing structure and transaction pattern of fresh milk have been changing extensively. Establishment of milk station is a chance for the dairy farmers, who do not own the milking parlor, have to take dairy cows to the milk station and to sell their fresh milk.

This study aims; (1) to identify the structural change of milk production in Inner Mongolia by comparing from the 1990s to the 2000s, (2) to discuss the possible future issues based on the analysis results that the food marketing structure and fresh milk transaction.